

## 第5回環境教育・環境学習ネットワーク会議 議事録

日 時：平成 23 年 5 月 31 日（火） 15:00～17:00

場 所：1 号館 3 階会議室 B

出席委員：高橋会長、鈴木副会長、飯島委員、稲委員、宇佐美委員、齊藤（允）委員、  
奈良谷委員、野崎委員、原口委員（9 名）

事務局：環境政策部環境企画課（本多課長、川村主査、太田主任、西形、高橋）

傍聴：なし

### ◆ 会議の流れ

#### 1 開会

#### 2 市の組織改正による事務局部署名変更との説明

#### 3 議題

- (1) トライアル事業 1 「よこすか E C O 通信」の発行について
- (2) トライアル事業 2 人材育成講座の実施について

#### (1) 第 4 回会議の検討課題等

##### ● 環境企画課から趣旨説明

- ・ 前回までの検討結果の確認
- ・ シンボル事業については、平成 24 年度以降の実施を目標に平成 23 年度の検討とする。
- ・ トライアル事業については、平成 22 年度の会議で 2 つの事業案の検討を行い、平成 23 年度実施することを確認した。
- ・ 平成 23 年度事業について（市予算）

事業 1 「市内の環境関連事業の情報の一元化・情報発信」

事業 2 「相互交流を生かした人材育成講座の試行」

##### ・ 議論のポイント

#### ① トライアル事業実施内容について

「よこすか E C O 通信」の内容についての確認、情報の追加、配布の協力等

#### ② その他喫緊にこの会議で検討することの提案

## 【意見交換内容】

### 議題 1 について

(高橋委員長) 欠席の内船委員より次のような意見が来ている。「よこすかECO通信の1ページ目のホタルの記事について、発行回数が年4回ということだが、環境月間などを考慮して、4月・6月・9月・1月がいいのではないか。内容について、観察マナーの部分が目立ちすぎる所がある。観察時は夜になり暗いので、昼の明るいうちに下見をするように加えてほしい。」という内容である。

これから発行するということが、ホタルの最盛期が過ぎるのではないか。1ページ目の下のホタルイベントの案内はすべて締め切りが過ぎることになるが、いいのか。

斉藤(充)委員はホタルの再生に取り組まれているが、そちらの地域のホタルの様子はどうか。

(斉藤(充)委員) ぼつぼつといった具合である。気温が低く、風が強かったので、飛ばずに葉の陰に隠れている感じである。

(奈良谷委員) 締め切りを過ぎたものは参考程度として、控えたほうがよい。創刊号として、間が抜けてしまう印象がある。

(高橋委員長) 夏休みの話題を入れてみてはどうか。また、創刊号なのでECO通信の意義を載せてはどうであろうか。

(野崎委員) ECO通信がいつ出るかわからないが、ホタルイベントの3つともすべて締め切りが過ぎているのはいかがなものかという印象がある。ホタルも、平家ボタルなら7月でも見ることができる。場所もあるので、具体的な場所を載せた方がよいのではないか。

ただ、ホタルの観察は、個人が自由に観察してはいけない場所があるので、その点は確認をしないといけない。

(高橋委員長) ホタルの観察場所は、ホタルマップや広報よこすかに掲載がある。

(事務局) 広報への掲載はあるが、ホタルマップについては、現在はホームページの記載をやめている現状である。

(野崎委員) ホタルは来年の間に合う時期に回してみてもどうか。ホタル以外の他の川の生物、海の生物について、夏休みに企画している団体もいろいろあると思うのでその内容の方向にしてみてもいかがであろうか。

(奈良谷委員) ホタルは来年にするという点については、賛成である。ECO通信が発行されてすぐ見られるものならばいいが、実際はしばらくラック等に配架されると思うので、その掲示される期間を考えると、内容は差し替えた方がいいと思う。

(事務局) 6月は環境月間ということでホタルをシンボリックに取り上げてみたが、別の話

題に差し換えても良いと思う。逆に創刊号で「横須賀だったらこういうものが」というものがあれば、この場でだしてほしい。

(高橋委員長) 環境シンポジウムの内容を取り込むことはどうか。6月末に開催される環境シンポジウムに併せて創刊した、という形にしてはどうか。

(事務局) 環境シンポジウムは環境基本計画を中心とした環境全体のイベントなので、環境教育・環境学習に特化した「よこすかECO通信」とは若干違いがある。

(野崎委員) 2ページ目もホタルの内容だが、環境学習プログラムをそのまま切り取って載せた感じがあり、読みにくい。環境学習プログラムの中に、夏の学習プログラムがあればそちらの方がいいと思う。

(高橋委員長) 小学校の先生の意見はどうか？

(原口委員) せっかく創刊号ならば「なぜこれをつくったのか」、「これからどういったものをつくるのか」を前面に出してもいいのではないか。これから継続的に読んでいってもらうためには、大切だと思う。ホタルについてだが、学校としては、環境学習プログラムはとても参考になる。ただ対象が一般市民の場合は同じように使えるかどうかはわからない。

(稲委員) ホタルの観察は夜なので、当然子どもは保護者が連れていくことになる。

子どもが行きたくなる内容が大事だが、同時に保護者についても考える必要がある。学校に配られた場合、掲示することになるので、子どもが情報誌を見て、それを親に伝えて、実際に観察に行くような内容にしてほしい

また、なるべく文字を減らして、イラストを増やす等例えば、マップを大きくすると「こんなところにいるんだ」といった関心が引ける。またホタルがいるところが「家から近い！」となれば、観察に行くのではないであろうか。

「創刊にあたって」の説明文はもっと前に持ってきた方がよい。加えて、どういう目的で発行されたかは初めにあった方がよいと思う。

(宇佐美委員) 前面に創刊の意義を掲載する意見に反対というわけではないが、ECO通信をまず手にとってもらうことが大切である。ホタルはシンボリックにインパクトがあり、横須賀の気候の素晴らしさが伝わるので、ホタルを絡めてインパクトのある内容にしてほしい。

字が多いと敬遠されてしまうので、字は極力減らした方がいい。イラストを使うことは賛成である。

(原口委員) 裏表紙に横須賀の環境の豊かさが書かれているので、これはホタルにつながると思う。ホタルのいる環境→豊かな横須賀の環境→この環境を守っていききたい、といった書き方にしても良いのではないか。

単に「見に行ってください」とは違った書き方をお願いしたい。そのため、観察情報は参考程度に載せてはどうか。また、文字を少なくするのは賛成であり、囲みが単調であったり、字体もまちまちなので、そういったところを変えるだけでも印象は違うと思う。

(高橋委員長) 事務局には裏表紙の部分を織り込んで、表紙の作文の見直しをお願いしたい。ところで、用紙の色とか、刷りはどうなるのか。

(事務局) 今のところ、インクは1色刷りで用紙は色紙を考えている。

(野崎委員) 配布先は小中学校だけでなく、サポートセンターなどでも配布して、先生、子どもなどいろいろな年齢層に見てもらいたい。編集の際に意図的に「大人が読む部分」、「子どもが読みたくなる部分」、「先生達への情報」としたらどうか。

(飯島委員) ぱっと見たときに威圧感を感じる。また、限られた紙面だが、文字が多すぎると敬遠される。表紙に創刊の意義、中面にホテル情報、裏面に夏休み情報としてはどうか。

ホテルはシーズンがあると思うが、見出しで「まだまだ間に合います!」といった内容があれば興味を引くであろう。

(高橋委員長) デザインの部分等は事務局でやるのであろうか。プロに頼めないので大変だと思うが。

(奈良谷委員) 今までプロに任せていたような部分は広報課に意見を聞いてみればいいのか。それにより、事務局の負担を減らすことにつながるだろうと思う。

(高橋委員長) 裏表紙の下の発行元・連絡先等は一番下がよいと思う。

(事務局) 夏休み講座等について、委員の方がお持ちの情報があれば教えて欲しい。

(高橋委員長) 市民活動サポートセンターで、のたろんフェアで環境学習がある。

配布先や配布数についてはどうか。

(稲委員) 小学校は6学年あるので、6部は欲しい。支援級を含めると7部で、欲を言えばクラス分欲しい。

(事務局) さきほど野崎委員から部分的に子どもが興味をひく記事をつくるという提案があったが、例えば低学年の先生に渡しても活用してもらえるものか。

(稲委員) 低学年の児童は読めないだろう。おそらく先生が参考に使用することになる。

間をとって中学年の児童くらいを対象とするのがいいのではないか。

(高橋委員長) 事務局の対象は、子どもより先生となるのか。

(事務局) 先生に見てもらい、そこから子どもに紹介してほしい。ただ、今日の話聞いて一部コーナーで子ども用の内容があってもいいと思った。

(鈴木委員) ECO通信を学校に送るのは郵送になるのか。インターネットを使い、そこか

らダウンロードできるようにすれば、手間が減ると思うが。

(事務局) 紙としての発行に加え、市のホームページへの掲載を考えている。

学校として使い勝手はどうか。

(高橋委員長) 学校の情報システムはそこまで進んでいないと思うが。

(原口委員) パソコンは教員に一人1台あるが、インターネットにつながるのは1校1台程度。ダウンロードして、印刷して、配布、となると受け手によっては手間と感じる人もいる。学校にはいろいろな文書が来るが、学級分あると配布しやすい。

また、配布の際に各学年1部、高学年に配布とか明示してほしい。

(高橋委員長) 学校以外はどうか。

(事務局) 配布は主に市の施設を考えている。委員の方で配布できるところがある場合は、教えてほしい。

(稲委員) 総合学習研究会の運営委員には配布してほしい。

(野崎委員) 配布先として、高等学校や大学はどうか。

(事務局) 検討していきたい。

## 議題2について

(稲委員) 総合的な学習の時間研究会で今年度また研修を行いたいと考えている。自然環境について学習したいという声が出ているため、具体的な行先は猿島を考えている。

(高橋委員長) 猿島は土木みどり部で猿島ガイドがあり、加えて、専門ガイドがいるのでそれを利用することも可能だろう。

(事務局) 猿島ガイドの養成を担当している緑地管理課は、今年度から環境政策部となった。

稲委員からご提案いただいた件は現実味があり、市としても実施したい。

(高橋委員長) 猿島ガイドはいつでも実施してくれるので、相談にのってくれるであろう。

(事務局) 他の委員に異存がなければ、この件は総合的な学習の時間研究会と事務局で話を進めていきたい。

(高橋委員長) トライアル事業の事業案として出ているものは市が実施することだが、

さきほど稲委員から提案があったものは、トライアル事業とは別になるのか。

(事務局) トライアル事業でできるものであれば、トライアル事業として行いたい。

トライアル事業2の1回目の講座については、稲委員と提案を検討して具体化していきたい。

2回目、3回目については講師たちからのニーズを聞いて組み立てたい。

(高橋委員長) 欠席の内船委員から「学校教諭向けにはすでに研修があり、博物館でも担当している。また、既存の研修とうまく連携できれば、研修がより充実するのではないだろうか。」との意見があった。このことについては、どうなのか。

(原口委員) 確かに研修は多い。ただ自然のものは理科が多く、地域の自然に関連するようなものは少ないので、以前は研究会で実施をしていた。今年は自分が(教育研究所で)担当なので、検討していきたい。

(高橋委員長) 市だけでなく県のレベルでも、先生の研修は行っているのか

(原口委員) 把握していない。

(高橋委員長) 教育研究所とバッティングすることなく、うまく拡充させて欲しい。

(鈴木委員) トライアル事業2の3回の講座の内容が決まればこのまま実施となるのか(事務局) 実施する。

(鈴木委員) 講師謝礼金が 3,000円×8名となっているが、その内訳は?

(事務局) 1回目は野外活動を想定しているため講師5名を考えた。他は2回目1名、3回目2名である。

質問になるが、3回目について企業の方に講師をしてもらうことは可能か

(鈴木委員) 実施は可能。今も行っている。ただ人数を絞ってもらわないとできない。

田浦コミュニティでやった時は30数名で施設見学を行った。市役所の庁舎でやると座学になるので、つまらなくなってしまう。

(高橋委員長) 横須賀市は国等の研究施設もあるので、そういった場所に行くのも教育になるであろうと思う。

(高橋委員長)

本日の会議は欠席者が多かったので、事務局には開催日の調整をお願いしたい。

本日の会議はこれで終了とする。

(事務局) よこすかECO通信については、校正後に委員の方へチェック用に送るので確認をお願いしたい。

#### 【事務連絡等】

委員任期が平成23年7月31日までであるため、委員改選について事務局にて行っていく予定である。

第6回は委員改選後の8月に開催する。日程調整を後日改めて連絡をさせていただく。